



ウダゲダラ ダヌスカ バンダラ ナワラトナさん



スリランカ

『サムライ』

「人も桜もいつかは散る。吐息の一つ一つに、茶の湯の一杯に、敵の一人一人に生命が宿っている。それは忘れてはならぬ。それは武士道だ」

みなさん、『ラストサムライ』という映画を、知っていますか。この言葉は、『ラストサムライ』の中で、「かつもと」というサムライが言った言葉です。



スリランカにいたとき、私はこの映画を見て、サムライを初めて知りました。礼儀正しくて、けがをした英国人を、敵なのに助けるやさしさを持っている一方、敵につかまることを恥と考えて「切腹」する厳しさを持つサムライを、かっこいいと思うようになりました。

サムライは、1200年ぐらい前に登場しました。身分が高い人を守るのが仕事でした。日本中で戦争があった時代は、戦うのが仕事になりました。誰でも力があって、戦争で活躍すればサムライになることができました。天下統一をした、豊臣秀吉も、はじめは農民でしたが、力をつけて、サムライになり、とうとう日本で一番強い人になりました。

日本のサムライは「武士道」という独自の「理念」「思想」を持っていました。自分の行動や責任に命をかける、命をかけて主人をまもる、失敗をしたら命を捨てる覚悟をするなど、命をかけることから「切腹」という文化が生まれました。

日本に行けば、もしかしたらサムライに会えるかもしれないとわくわくしていましたが、日本へ来たら、はかまをはいて ちょんまげをゆい かたなをもったサムライはどこにも見かけなくて、がっかりしました。では、サムライはもういなくなってしまったのでしょうか。いいえ。サムライは、まだ生きています。正しい心とやさしさ、そして礼儀正しくて、何かに命をかけてがんばっているすべての人が、サムライではないでしょうか。私も、サムライのような生き方をしたいと思います。

「人も桜もいつかは散る。吐息の一つ一つに、茶の湯の一杯に、敵の一人ひとりに命が宿っている。それは忘れてはならぬ。それは武士道だ」